

平成 29 年 9 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
平成 29 年度第 7 回（講話後半）

※今回は講話の前半部分が録音出来ませんでしたので、後半のみの講話録となります。

心の持ち方

本日のテーマ、心の持ち方について申します。前回のフォーラムで或る出版社の編集長とお話した時、「何故そんなにパワーが出るのですか」と聞かれたという話を致しました。皆さんにお聞きします。

「何故そんなに元気なんですか」、「何故そんなにパワーがあるのですか」と聞かれたことがありますか？

では、「前向きですね」とか、「積極的に動いていますね」というニュアンスの言葉をかけられた方はおられますか？

・・・今、手を挙げられた方は波長が同じですから、私の話が比較的耳に残りやすいと思います。「元気なのは、世のため人のために動いているから」「世のため人のためになることをしているから、パワーがあるのです」・・・そう答えて戴いて結構です。

自分自身のために行動することは多いけれども、もう一つ、世のため人のためになることをしてみようかなと思ったなら、実践してみるとよろしいですね。そうすると、それなりの反応があったり、自分の心の中に何か手ごたえが残ります。世のため人のためと言うのは何か照れくさいと感じるかもしれませんが、言い続けていると、そういう気持ちが消えて素直に言えるようになります。どうぞ頭の中に留めておいて下さい。

寝際を良くする

では、天風先生の話をお話します。

天風先生の言葉で私が良いなと思うのは、「寝床に入ったら、考えりゃ考えるほど楽しく、思えば思うほど嬉しいことだけを考えたり、思ったりすればいいんです」「夜の寝際くらいは綺麗な気持ちにおんななさい」という台詞です。なぜなら、天風先生ご本人がそういう人生を送られたからです。

天風先生は、ヨガの大聖者と言われたカリアップパ師からヨガの秘法を教わりました。というより、自得する環境を作って貰ったというべきでしょう。何千人のお弟子さんがいる

中で、秘法を悟れないで終わる人が大半ですけれど、天風先生は1年7カ月で悟ったわけです。

悟りを窮め日本に帰る途上、中国で孫文の起こした第二次辛亥革命に軍事顧問として協力をします。その謝礼として大金を貰い日本に帰って、銀行を作ったり幾つかの会社を設立します。朝から晩まで駆けずり回って、いわゆる実業家として成功し、人も羨む人生を歩んでいたわけです。ところが或る日、奥様から言われて知り合いのご婦人方に人として生きるべき道を説いたところ、とても気持ちがすっきりして通常得がたい気持ちの良さを味わいます。

もう一つ、エピソードをご紹介します。

天風先生が日本に帰って真っ先に向ったのは、師匠の頭山満先生のお宅でした。奥様に取り次ぎを頼むと、いつもならすぐに通してくれるところが暫く待つように言われます。これは戦争に行ったまま音信不通だったから機嫌をそこねたかなと思っていると、30分くらいして書生がやって来て部屋に案内されます。襖を開けると、師匠と奥様が紋付の着方で正装をして、下座に坐っておられる。驚いた天風先生に頭山師は、「キリストも釈迦もマホメットも悟る時は行方不明になっていた。そして突如、見違える人物になって世の中に顕われた。あなたは8年も行方知れずになっていたが、悟って帰って来られた。どうぞ上座にお坐りなさい」と言ったのです。尊敬する師匠が認めてくれた、キリストやお釈迦様と並べてくれたのですから、天風先生はむず痒いながらも嬉しかったと思います。

その頭山先生が講演を頼まれて天風先生がお供して行った時のこと、壇上に上がった頭山先生は大勢の聴衆を前にして、暫くのあいだ押し黙って見回している。暫くしてようやく喋り出し、「私は話が下手だから、私の気持ちのすべてを天風に喋らせる」と言って壇上から降りてしまった。師匠の言うことには逆らえませんが、天風先生は滔々と人としての道を説いて聞かせました。そして、喋り終わると実にすっきりしたわけです。世のため人のためになることをして、こんなにもいい気持ちになるのかと思って決心をし、師匠に「今日ただいまから、一切の社会的事業と縁を切ります。そして人間として生きる正しい道を皆様方にお話する、そういう人生を送りたいと思います」と宣言し、師匠からは「うん、やれ」という一言を貰います。それから僅かの中に会社を人に譲ったり始末をして、一切の地位をなげうって、これからは人のためになる話を一生涯続けようと決めて辻説法を始めたのです。

天風先生の講演は天風会が記録として残して出版されているので、こうしてお話が出来ます。群馬県にも天風会があって私もお邪魔したことがあります。

これからフォーラムの講話の中で、折に触れて天風先生の話をして参ります。こういうことをして、それが生きる上での大きな力になった、という具体的な事例をどんどんお話ししながら進めて参ります。

今日は天風先生の紹介になりました。最後に、心の持ち方について一つだけ申し上げます。皆さんはご自分の本性・正体は何か考えたことはありますか？

ピンとこないかもしれませんが、この辺りの空中に漂っているものがあります。テレビやラジオのスイッチを入れると、映像が移ったり音が聞こえるのと同じように、人間のもとになるものが眼に見えないけれどもある。それが彷徨っていて、ある時お母さんのお腹に入る。その時、その人の本質・本性・本体のもとになるもの、命が宿るわけです。命が宿った後は、肉体が出来てきます。最初に出来るのは、心の受け皿です。それからだんだん手や足といった肉体そのものが出来あがってくる。ですから肉体は、心がこうしたいと思った時に動く道具になる。着る衣服になると思って下さい。

では、心とは何か。心は、命が<ああしたい、こうしたい>と思う時の、思う部分の機能です。天風先生の言はれるところの「心は乗り物」です。命は、それだけでは何も動けないし考えられない。命がこうしたい、ああしたいと思うもとをこしらえた部分、命の受け皿が心であり、心の受け皿が肉体である、という解説をしておられます。

この話はピンとこない部分が沢山あると思うので、色々な角度からまたお話を致します。ですから前に座っておられる川村さんの正体は、肉体ではない。川村さんが心だというのも川村さんの正体ではありません。命そのものです。では命とは何か、これについては次のお話になります。

お時間が参りました。時事評論についてはお話出来ませんでした。ただ一言、中国・ロシア・アメリカは水面下でずっと交渉をしています。日本は蚊帳の外です。突如として何か出て来る事がある、と申し上げて終了と致します。